2021 明治安田生命 J3 リーグ 第 21 節 vs.FC 今治

10/2（土）15:00 kick off　@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2021J3■順位表■第20節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）
（ 注：＊印は消化試合が
数字分少ない ）

1＊1	熊本	36p	+10	23	13	H●	
2	岩手	34p	+8	27	19	A○	
3	宮崎	34p	+5	26	21	H○	
1＊4	富山	32p	+7	28	21	A●	
5	福島	32p	+5	27	22	A○	H●
1＊6	岐阜	28p	+3	24	21	---	---
1＊7	鹿児島	28p	+3	23	20	H○	A●
2＊8	八戸	26p	+4	20	16	H△	
1＊9	長野	24p	+7	25	18	A●	
1＊10	YS横浜	21p	−6	17	23	H●	A○
1＊11	藤枝	20p	−2	24	26	A○	
12	沼津	18p	−9	16	25	H○	
13	鳥取	17p	−16	19	35	A○	H●
14	今治	16p	−5	19	24	A●	
15	讃岐	16p	−14	17	31	H○	

次回HomeGame

第23節 vs.いわてグルージャ盛岡
10/17（日）16:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩３分。
休:月曜日

today's guest：FC今治

2020 J3 15勝10分９敗　勝ち点55：７位

直近の対決と結果
2021/06/20 J3 - 12節＠夢スタ
今治 3-0 岐阜

ここ３試合の公式戦の結果	
FC岐阜	FC今治
2021/09/25　J3 - 20節＠白波スタ 鹿児島 1-0 岐阜	2021/09/26　J3 - 20節＠夢スタ 今治 0-1 岩手
2021/09/11　J3 - 18節＠長良川 岐阜 0-3 鳥取	2021/09/18　J3 - 19節＠ニッパツ YS横浜 0-0 今治
2021/09/04　J3 - 17節＠ニッパツ YS横浜 0-3 岐阜	2021/09/12　J3 - 18節＠夢スタ 今治 4-3 藤枝

●シーズン後半戦の初戦・ホーム福島戦で大敗したものの、次節アウェイ YS 横浜戦では快勝したＦＣ岐阜。仕切り直しで挑んだ 9/11（土）第 18 節・ホーム鳥取戦だったが、前半を無得点で折り返すと、後半早々に失点。その後も失点を重ねる一方で全く反撃もできず、０－３で敗戦、ホーム連敗となってしまった。そして試合のない週を挟んで、続く 9/25（土）第 20 節・アウェイ鹿児島戦は、スタメンを５名入れ替えて臨んだものの、試合開始直後に失点。その後、同点に追いつくべく攻撃を繰り返す岐阜だったが、決定機には至らず、そのまま０－１で敗戦。岐阜は連敗を喫し、そして今季８敗目、シーズン後半戦に入って既に３敗目となってしまった。この３節で、１試合の休みがあり、かつ勝ち点を全く積み上げられなかったＦＣ岐阜は、順位を６位に下げた。大量失点が続き、得失点差でも不利になった。７位・鹿児島とは勝ち点で並ばれ、首位・熊本とは勝ち点差８、２位・岩手とも勝ち点差６と大きく離されてしまった。各チームで、消化した試合数や対戦相手が異なるために単純な比較は困難だが、ＦＣ岐阜の今季の目標であるＪ３優勝・Ｊ２昇格の達成が、（現時点では、他の上位チームに直接対決で勝利しただけでは順位が逆転しないので）かなり苦しい立場になっているのは、残念ながら間違いない。だが、その目標を諦める段階ではないのも、また事実だ。目標達成のためには残り 10 試合、チーム一丸となって、最後まで必死に勝利を掴み続けることが本当に必要だ。おそらく現在の岐阜に、簡単な対戦相手など存在しないし、１試合でも勝ち点を取りこぼしてしまうと、本当に今シーズン途中で絶望を迎えてしまう、まさに “背水の陣”。だが、それでもやり続けて、達成するしかない。ましてや、もう僕らはこれ以上、ホーム・長良川で無様な負け試合など見たくない。今節こそ、チーム全員が最後までひたむきに走り抜いて、そしてゴールを奪って勝利する姿を、僕らＦＣ岐阜サポーターに見せて欲しい。

さて、今節の対戦相手はＦＣ今治だ。Ｊ３初年度の昨季は７位に終わり、今季はリュイス監督２年目体制の元で更なる飛躍を目指したが、成績不振により第８節終了後にリュイス監督は契約解除に。後任として 5/24、群馬を 2019 年に率いてＪ２に再昇格させた布啓一郎氏を迎え、立て直しを図ったがチーム状況が好転せずにいると、なんと 9/29 には布監督が退任してアカデミーメソッドグループ長の橋川和晃氏が新監督に就任し、今節から指揮を執る。現在の順位は 14 位。ただし、シーズン後半戦の戦績は１勝２分２敗・４得点５失点。負けたのは現在首位の熊本と２位の岩手ということを考慮しなくてはならない。今治との対戦成績は、岐阜の１勝１分１敗・３得点５失点。昨季のホーム対決はシーズン開幕戦の 6/27（土）だったが、スコアレスドローに終わった。そして今季のアウェイ 6/20（日）第 12 節は、試合開始直後に＃42 柏木陽介が負傷交替したことも影響したのか前半に２失点。後半には岐阜が押し込む時間を作るがゴールを奪えずにいると、カウンターを浴びて３失点目。結局０－３で敗戦し、今治の布監督（当時）に今季初勝利をもたらす結果となってしまった。今節の今治は、今季初のアウェイ勝利とダブル、そして橋川監督の初勝利を目指して向かってくるだろう。岐阜の選手たちには、それを跳ね返す強い勝利への執念をピッチ上で最後まで表現し、しっかりと勝ちきって貰いたい。

今治の要注意選手には、まずは現在４得点の＃11 バルデマールを挙げる。元日本代表で経験豊富な＃３駒野友一の右足は今もなお驚異だ。そして、2018 年には京都から期限付き移籍で岐阜に在籍していた＃19 島村拓弥は、今治の攻撃にアクセントを与えるキーマンだ。古巣対戦に燃えているだろうが、恩返し弾など許してはならない。なお、2015 ～ 2016 年に岐阜に期限付き移籍で在籍していた＃33 レオミネイロは、ケガのため残念ながら岐阜に姿を見せることはなさそうだ。

ようやく、新型コロナ「第５波」による約１ヶ月間の『緊急事態宣言』が解除された岐阜県内。このホーム・長良川にも、すべてではないが、ピッチ外でのイベントや屋台村の賑わいが戻ってくる予定だ。今後は徐々に、Ｊリーグ全体でスタジアムでの行動制限の緩和が検討される見込みだが、今はまだ、強い警戒と行動制限が求められている。声を出して選手を鼓舞したい気持ちを堪えて、勝利を目指して戦う選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出（振るのは禁止）でスタジアムを緑に染め、（声は絶対に出さずに）拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。そして、今日こそ勝利を掴み取ろう。（ささたく）

投稿募集！！ gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）10/2号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当：ささたく＆吉田鋳造

【第 18 節】岐阜 0-3 鳥取

●う〜ん、言葉がない……。中断明けの福島戦を『ブザマ』と書いてしまったので、それ以上の形容ができない。語彙力不足を恥じる次第だ。とにかく、残念なうえにも残念な試合、としか言いようがない。ずっと支援を続けてくださってるメインスポンサー様のサンクス・マッチだよね？この試合。前回の長良川同様、勝たなきゃいけない試合に、０円提示した２人にゴールを許しての零封負けとか。感情に任せて書き殴れば、いくらでも出てくる言葉はあるけど、そんなことしても何の慰めにもならないし、ただのサポーターにも意地とプライドってモノもある。
プライドといえば、試合後に桐畑がゴル裏で発言した件。流れてくる情報であらましはわかったけど、インスタをやってないから彼がどんな話をしたかもわからない。当日、その場で居合わせた仲間からの情報だと、以前にキャプテンが激高した件からの流れがあったらしいね。いずれにせよ、想像でしかないんだけど、気になるのは『ためいき』云々のこと。ため息や発声が選手にも聞こえているのは知ってるし、それは歴代のコルリが常々訴えてきたことだ。だから、失点した後にこそ、ゴル裏はさらに声を出していこう！ため息を消してしまおう！って気持ちでやってきた。たとえ、8 点取られようと、7 点、6 点取られようと（多かったもんなぁ、そういう試合。）、半ば、ヤケッパチだったかもしれないが、ソレはずっと変わらずにやってきたよ。そして、現在。こんな前代未聞、空前絶後（絶後であってほしい）の状況で、声も出せない中で創意工夫を重ねたクラップを絶え間なく続けているコルリやリズム隊とゴル裏の仲間達。彼らが桐畑の言葉をどう受け止めたのか。それを思うと胸が塞がる。ただ、桐畑は今までのウチを知らないからしかたがないとは思う。それに、今のゴル裏の応援が、少なくともＪ３のどこのゴル裏よりもイケてることはわかってくれていると思う。なんなら、彼が以前所属していたクラブでは、ウチなんかとは比べ物にならないくらいの洗礼を受けていたはずだから（笑）。残念ながら、彼の指摘通りにため息は多いかもしれないが、それは失点した後に期待が持てないからってこともあるだろう。一度もないよね？今季の逆転勝ち。同点に追いついたことすらも。そのうえ、戦う姿勢も見えて来ない内容で、見てる側にそんなことを求められてもね。願わくば、ウチの選手には「ため息なんぞ、オレのプレーで消してやる！歓声に変えてやる！」ってくらいの気概を示してもらいたい。Ｊ参入後、ほとんどいい成績がなく、栄光と言ったら 2009 の天皇杯ベスト 8 くらいしかないウチに唯一あったのは『ひたむきに戦う姿勢』だった。ソレを見せてくれたからこそ、我々も全力で後押しができた。選手もスタッフも入れ替わったけれども、見ている側はソレを覚えてる。選手と共に戦う気持ちは常にある。立ち上がれ！前を向け！後ろにはみんながいる！まだ、何も失ったワケじゃない。やろうぜ！（ぐん、）
●えーと……『前半はよかった。以上』で片付けて、記憶に封印をして地中深くに埋めたくなるような試合でした。アウェイで YS 横浜に快勝（？）して、『この勢いのままホームでも勝利を』と、誰もが思っていたであろう試合。実際、前半は岐阜の方が押し気味に試合を進めていたし、決定機と言うほどではなかったけれど、惜しいチャンスは何度か作れていたと、僕は感じていた。
ところが、だ。『ちょっと危ないな…』と思っていた（いや、正確には『いつも危ないな』と思っていたと言うべきかもしれない）右サイドのスペースを鳥取に攻略されてしまう。元々、３バックに対してはＷＢの裏を狙うのは定石だと思うんだけど、＃22 舩津徹也が上がり、さらに＃17 藤谷匠が中央寄りに釣り出され、他の選手のカバーも無いとくれば、そりゃあ狙われるしゴールも奪われるよね（溜息）。しかも、それを昨年で岐阜を契約満了になった＃18 石川大地に決められるって、どうなのよ（怒）。んで、ここまでは（百万歩ぐらい譲って）まだ何とか簡単な（？）ミスだと思えるんだけど、その後の交替が（比較的機能していたと僕には思えた）左サイドの選手だったのは、どういうことなの？そして、10 分経たないうちに、再び右サイドの裏を、今度はサイドチェンジのパス１本でフリーに突破されて、２失点目。１失点目の分析や修正が、ピッチでもベンチからも無かったってのは、どういうことなの？そしてさらに、左ＣＢに＃２橋本和を入れる意図が……僕には分からない……（溜息）。そして３失点目は、１失点目と似たパターン。しかも、これもまた昨年で岐阜を契約満了になった＃21 永島悠史に決められるって、どうなのよ（怒）。だけど３失点目がもっと酷かったのは、ゴール前に岐阜の選手たちは揃っていたのに、足が止まっていたこと。ちょっと前から僕は気になっているんだけど、ウチってウォーミングアップで消耗しすぎてない？他のチームって、試合前もＨＴも、軽めのアップで済ませてないかな？安間監督は試合後に『なぜか走れない試合がある』という旨の発言をしたらしいけれど、それって（もちろん練習環境の不足も原因には考えられるけれど）フィジカルの鍛え方が足りないのか、コンディション調整に失敗してるのが原因じゃないのかしら？そして、これもまた前から気になっているのが、チームとしてのメンタルの弱さ。今季は逆転勝利どころか、追いついて引き分けた試合も無いはずだ。先制できれば勝つ確率が出てくるけど、先制されると跳ね返す力（戦術？）が無いというのは……これもまた、試合後に安間監督が『ミスしてスタンドからため息が聞こえるとプレーが消極的になる』とかいう旨の発言をしたらしいんだけど、それってつまり『自分たちのサッカーに自信が無い』から、下を向いてしまうんじゃないのかしら？それに、これは『卵が先か鶏が先か』って話で、良いプレーにスタンドは感嘆して拍手を送り、その反応でプレーの質が…っていうような、好循環するか悪循環するかの問題じゃないの？その最初の原因をスタンドに求めてしまうんなら、『じゃあ無観客試合なら勝てるの？それで勝ってくれるんなら、僕はスタジアムに行かないよ？』って、ついイライラしながら僕は考えてしまう。そーいや、一昨年も大一番の鹿児島戦で負けてから４連敗したんだっけ……いつからウチのチームはメンタルふやふやになったのかしら……（溜息）。
…とまあ、本当に思い出したくもない試合だった。だから、記憶から忘れさせてほしい（苦笑）。これからの試合での活躍で、勝利という結果で、こんな嫌な思いを忘れさせてほしい。（ささたく）
●ディストピア小説の名作（と言っていいだろう）、ジョージ・オーウェル作『1984 年』の有名なセリフが、これだ。
「私たちはさよならを言った方がよさそうね」
「お前たちはさよならを言った方がよさそうだ」
鳥取戦が終わって、真っ先にアタマに浮かんだのがこの一節だった。
『勝っているチームはいじらない』の鉄則に倣い、川西と吉濱はこの試合もベンチ外。それは別に構わない。だって『勝っているチームはいじらない』のだから。甲斐がベンチ外だったのは大きく驚いたが、その後の新聞報道によればケガをしていた模様。試合は、前半は膠着しつつも岐阜ペースだと思った。ちゃんとボールも動いている。「緑の３連星」の頃は大西や中島の攻撃参加は少なかったが、YS 横浜戦に続いてこの試合でもうまく前線に顔を出していた。大西や中島の動きは「緑の３連星」というより「ホンタクの存在」とも言うことが出来るが、それでも「緑の３連星」の頃よりはボールが動いていると思った。左ＷＢのレレウもただサイドを縦に狙うだけでなく中に切れ込んでくる仕掛けもあった。だから、前半から目についていた１ヶ所の不安点を除いては楽観視していた。その不安点は、３ＣＢの右、タクミのエリア。舩津がかなり積極的に前に出ているので、その後ろは狙われやすい。これはＷＢ攻撃参加の普通のリスクだから構わない。誰かがカバーすればいい。ただ、ここでタクミが前に釣りだされた時にその後ろで攻撃の起点を作られることが多かったように見えた。

するとどうだろう、後半はそこを突かれて失点を重ねてしまう。ただ、「だからタクミが悪い」とは思わない。将棋と同じで、こうこうこうこうこうこう……と理詰めのフォーメーション攻撃で崩していけば孔が開くのはよくあること。問題は、失点を重ねている間、スタンド観戦族ですらわかる「右サイドの弱点」に対してベンチが何の手も打たなかったことだ。
５人の交代枠のうち、懸案の右サイドに手を入れたのは最終５枚めの舩津→キム・ホのみ。３ＣＢの右ではなく左を交代（それも三ッ田からワタルに）とか、おそらく監督には凡人にはわからない高尚なゲームプランが描けていたのだろう、きっと「いずれ美しい」サッカーが展開されるのだろうと強引に理解するしかないような、でもそんな「美しい」サッカーはカケラも「らしさ」を見せることなく、90 分の笛が鳴った。
ぼくは、安間監督のサッカーには「勝利」以外の付加価値はないと思っているし、以前の『岐大通』にも書いた（と思う）。育成の結果、若手が伸びているとも思えないし、勝敗を度外視出来るだけのサッカー文脈的なアピール・ポイントがあるわけでもない。「勝たなければ意味がない」内容のサッカーを「勝てばいいんだろ」とばかりにやっている。
もちろん、クラブが「今年こそＪ２昇格」と言っている以上、「勝てばいいんだろ」的ビジョンには何の不満もない。勝っていれば、ね。「勝てなくなった」以上、そのビジョンを総括する時だって早くなる。いまの岐阜のサッカーはリニアというより自由落下的に下降線だ。それを、上昇線に持っていって失った分を取り返すためにどれだけのエネルギーが必要か。考えるだけでも吐き気がする。それも、嘔吐（おうと）ではなく吐瀉（としゃ）のレベルで。
ビッグ・スポンサー様のサンクスマッチで 0-4 と 0-3、これぞディストピア。お、うまく最初とつながった（笑）。「お前たちはさよならを……」の一節に対して、岐阜以外のＪ３チーム・サポは「頼むからまださよならは言わないでくれ」と願っているかもしれない。（吉田鋳造）

【第 20 節】鹿児島 1-0 岐阜

●前節の惨敗から、２週間空けての鹿児島戦。スタメンは５名入れ替え、＃10 川西翔太も＃４甲斐健太郎も戻ってきた。まだ＃41 吉濱遼平がベンチにも戻っていないのが少し気になるけれど、もうこれ以上は負けられない。２週間の準備期間があったのだし、勝つしかない。
……と思っていたんですが、そんな試合でいきなり失点しますかねえ……（溜息）。確かにダイレクトで撃った相手も素晴らしかった。だけど、＃17 藤谷匠の寄せも甘かったし、＃21ＧＫ松本拓也のポジションもよくなかった。反省していただきたい。そして、鹿児島の左サイドには得点源の＃36 米澤令衣がいる訳で、だから必然的に右サイドを攻められる訳で……途中から修正が入ったみたいで後ろの人数を増やしたのかな？それで守備は安定したけれど、攻撃が……（溜息）。今季に限った話では無いのだけれど、近年のＦＣ岐阜には『再現性のある攻撃パターン』が無いと僕は感じている。もちろん今の岐阜の選手は、Ｊ３レベルとしては技術的に上手い選手が多いとは思うけれど、それでも、自分たちで考えてプレーを判断すべき要因が多い分、動きが連動せずチグハグに見える場面が多い。だから、大事な相手ゴール前の場面でプレーにミスが出たり、シュートを撃てないのではと思ってしまう。もちろん、パターン一辺倒では相手に読まれてしまうから、選手の個性やセンスに頼る部分はあって良いと僕も思うんだけど、全く再現性の無い攻撃というのは、やはり『自分たちのサッカー』という自信が揺らいでしまう原因になるのではないだろうか。そりゃＪ１クラスの選手が揃えば、センスだけで攻撃が成立するのかもしれないけれど、Ｊ２・Ｊ３ではどうなんだろう……。だから、失点すると下を向いてしまうんじゃないだろうか。それと、ロングボールを多用する攻撃はいいとして、パスの出し手の問題なのか、それとも出し手と受け手の連携の問題なのか、ほとんど繋がらないプレーを無闇に繰り返して、それで簡単にボールを奪われて、また守備に追われて体力を消耗して……っていう悪循環が修正されないのは、何故なんだろう…（溜息）。そして、スタッツによるとシュートは鹿児島の倍、12 本撃ったらしいけれど、得点の匂いがしたのは、何本あったかしら……。
結局、この試合でも逆転はおろか追いつくこともできず、０－１で敗戦。鹿児島は、今季ホーム初勝利だったとか。わざわざ、恩義ある薩摩の皆さまが、僕らとの姉妹県盟約 50 周年記念の試合のためだけに、クラブ初の 3 rd ユニを拵えてくださったのだから、勝利を献上したのだと、そんな自嘲が湧き上がってきてしまう（苦笑）。
もう、後がない。少しは残っていると信じたいけど（苦笑）、“崖っぷち” だと思った方が良いだろう。選手たちには、もう開き直って、『やるしかない』と覚悟を決めて戦って欲しい。それしか、この苦境を打開する道はないように思う。（ささたく）
●う～ん、また、負けちゃったね。『再点火』と銘打った反攻宣言を HP に挙げてたけど、アレはやっぱり、来月からの話なのかな？ 10 月って書いてあったもんな。この試合のことも忘れないでやってください、って読んだ瞬間、思ったんだけどさ（苦笑）まあ、冗談はともかく、本当に痛い敗戦だった。いや、今後の敗戦は全部致命傷になるんだけどね。とにかく、あれだけのチャンスがありながら決め切れないんではどうしようもない。妥当な結果と言わざるを得ないね。当然、まわりの評価は芳しくないし、それは当然の帰結だとは思うんだけど、失点シーンは、匠に当たって軌道が変わったようにも見えるし、当たってないんなら撃った相手を褒めなきゃなんない。もう、どうしようもないヤツだったし、シュートに至るまでの繋ぎが素晴らしかった。だから、試合自体はボク的には納得というか、現地にいたら拍手で迎えられる試合だったんじゃないかな。全体的にはちゃんと戦えてたように見えたから。多分に、前節までが残念過ぎたからハードルが自然と下がってたからかもしれないけどね (笑) 翔太は、決定的な場面をいくつも見せてくれて、「さすがはキング！」という存在感を示してくれたし、前半終盤での隼平の一撃も惜しかった。透馬にももったいない場面があったね。それに、後半途中から初登場の稜は、今後への期待を抱かせてくれた。ホント、せめて勝ち点１でも取れてたらね。
とにかく、目標はさらに大きく遠ざかってしまったけれど、それでも、よくよく見たらば、昇格圏内とは勝ち点６差。可能性がなくなってしまったワケじゃない。選手もスタッフも諦めずに全力を尽くしてください。プロとしての矜持を見せていただきたく存じます。『ため息を歓声に変えること』もプロの責務ではないでしょうか。お願いします！
選手、スタッフと書いたけど、当然、三浦ＴＤを始めとするフロントにも全力のサポートをお願いしたい。ただ、それと同時に今後に向けての準備にも取り掛かってもらいたいですね。そもそも、ウチはいつもそれが遅れがち。それが成績に繋がっているような気がします。来季、いや、来季以降は既に始まっているんじゃないでしょうか。秋田はユース寮が完成したんですってね。今季終了後に訊いてみたいことがたくさん出来てしまいました（笑）。
それはともかく、まずは今治戦。この試合も長良川には行けないけれど、DAZN から応援します。勝ってください！（ぐん、）

魅力いっぱい、限定ユニ！

●９月６日は『黒の日』だとか。それに絡めて、とあるメディアがＪリーグの歴代黒ユニを特集し、上位 10 着を紹介していたんだけど、なんと、ウチの今季の黒ユニがトップに選出されていた！しかも左右に従えていた（2 位と 3 位）のが浦和と川崎。いやはや、ビックリするやら、誇らしいやら。記事を目にした時は、一瞬、息を飲んで、その後、思わず声を上

げそうになってしまった。いや、本当にいい出来栄えです、今季の限定ユニ。
胸に岐阜城と月、背中に鵜飼。各務原市在住の写真家・小林淳さんの作品を大胆に取り入れ、それをクラブ初の黄金ロゴで身にまとう。ただ、見ているだけでも眼福の一品。しかも、すべてのユニフォーム・スポンサー様が自社のロゴのカラーを変更することに快諾してくださるという、感涙なしではいられないユニフォームだ。一目で気に入って、いつも購入している背番号＆ネーム入りとは別に、背番号＆ネームなしまで購入。試合に関係ない外出にも着用して出かけてる。先日も、通院先でのリハビリ中に着ていたら、その病院に入院してた某選手がリハビリに現れた。やべー、しっかり、属性バレちゃうなぁとは思ったが、プライベートな場所だし、時期が時期だし、状況も状況なんで、視線を合わさず、気づかないフリをしてやり過ごした。彼がこのユニを着て、ピッチで躍動する姿を見たかったなぁ。たぶん、彼も、そう思ってたんじゃないだろうか。いや、きっと、そうに違いない。
小林さん、RAZZOLI のみなさん、ユニフォーム・スポンサー様、魅力溢れるユニフォームをありがとうございました。フロントもグッジョブです！
これで、試合……、いや、何でもない。例年のことです（苦笑）来季はがんばろうね！（ぐん、）

３つの『驚いた』話について。

●ホーム鳥取戦でコテンパンに負けてから、この原稿を書くまでの間にいろいろな出来事が。まず、岐阜の選手から『衝撃的』とも言える心情吐露があった。曰く「失点したりミスしたりした時のホーム長良川の観客からの溜息が聞こえると選手は萎縮してしまう。もっと強く鼓舞してほしい」という内容だったかと（現在はその SNS 投稿は読めなくなってます）。
いや、マジで驚いた。彼は、自分たちは「観客から与えてもらう立場」だと思っていて、「観客（FAN）に喜び（FUN）を与える立場」だ、それが職業だとは思っていないのだろうか。少なくとも、ぼくは選手のミスや失点が視たくて、スタジアムで溜息がつきたくてチケットを買っているわけじゃない。ぼくは、ファン／サポーターの持つ『顧客性』はものすごく大事な価値だと思っている。「ミスがあっても、失点しても溜息つくな」と言われたら、観に来なくなるよ。プロスポーツに限れば、「好意の反対語は悪意じゃなくて無関心」だと思うんだけどね。
すると、今度は岐阜の公式メディアに監督のインタビューが載った。ぼくは購読していないので、購読者からあらすじとか感想とかを伺っての感想になるけど、こっちも結構マジで驚いた。シーズンの６割が終わった段階で、そんなところの擦り合わせに汲々としているなんて。きっと「いつか魅力的」なチームになるのだろうけど、その「いつか」はいつなんだろう。ぼくが生きている間には訪れないんだろうな……。
そんな中、２季連続して監督の人選に失敗したとクラブが判断したのか、新しくチーム統括部長に就任したのが三浦俊也氏。これは真剣にマジで驚いた。かなり著名な方だけれど、その実績はすべて『監督』としてのもの。おそらく、こうした『フロント』業務は三浦氏も初めてなのではないか。その意味では、三浦氏の「統括部長としての」手腕に期待していいのかもわからない。統括部長として契約して、来季は監督に就任するのかな。2011 年の木村孝洋氏の例もあるから、その過程自体は驚かないけど、三浦『監督』のこれまでのサッカーってかなり特殊なもので、それが具現化したら長良川の観客は大木監督就任１年目を上回る衝撃を受けることだろう。大木監督の当時はＪ２、いまはＪ３。「三浦サッカー、出来るの？」という不安はどうしても払拭できない。
つまり、この３週間の間に３つの『驚いた』があったけれど、そのどれもが「ネガティブ」とは言わないけど「ポジティブではない」という種類のものだった。英米のＢ級コンテンツ風に書けば、バッド・トリップが保証されたソフト・ドラッグを渡されて「これで今夜はいい夢みろ」と言われたような気分だ（もちろん薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」です。ぼくも使った経験ないですよ）。いったいどうなるんでしょうね。ホントに『目が離せません』ですよ。（吉田鋳造）